

資料 1

平成 2 4 年度の取組について

釧路市



内容

- 1 . 釧路市の森林・林業の概要
- 2 . 過去の釧路森林資源活用
円卓会議での議論
- 3 . くしろ木づなプロジェクト
(平成 2 4 年度の取組)

1 . 釧路市の 森林・林業の概要

釧路市の森林

経緯

平成17年10月

- ・阿寒町,音別町,釧路市の3市町合併
- ・森林面積は10万1千haに

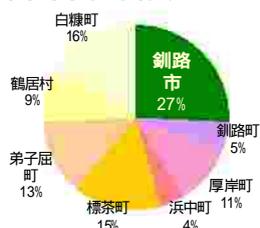


図 - 1 釧路管内森林面積割合

管内の約4分の1の面積

道内他都市との比較

道内都市（人口上位）の森林面積

市町村有林 + 私有林

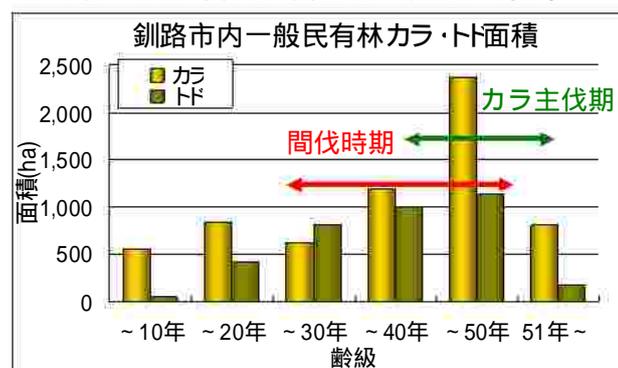
	人口	森林面積	うち一般民有林	うち人工林
札幌市	190万人	7万1千ha	1万5千ha	3.9千ha
旭川市	35万人	4万0千ha	1万1千ha	5.9千ha
函館市	28万人	5万3千ha	2万2千ha	7.5千ha
釧路市	18万人	10万1千ha	4万5千ha	12.9千ha
苫小牧市	17万人	3万4千ha	1万4千ha	4.8千ha
帯広市	17万人	2万6千ha	5千ha	2.6千ha

* 住民基本台帳人口2011.6 北海道総合政策部、H22林業統計 北海道水産林務部

- ・全道3位、全国9位の面積を誇る
- ・人口10万以上、森林面積10万ha以上は全国で3市のみ（静岡県浜松市、静岡市）

市内一般民有林資源の状況

- 人工林はカラマツ等を中心に約1万3千ha
- その多くが利用可能な時期に集中



* 林種・樹種 林相別森林資源構成表 (H21) 北海道水産林務部

豊富な人工林資源の有効活用が望まれる

釧路管内製材の現況

- 伐採量に対し、管内の加工量は少
 - 製材用途：梱包材が主、建築材少
- 地域内で加工し、高付加価値化が重要

釧路管内カラマツ材の流れ(H20実績)》



* 北海道釧路総合振興局林務課聞き取り

2 . 過去の 釧路森林資源活用 円卓会議での議論

円卓会議の目的等

「釧路森林資源活用円卓会議」

– 目的

釧路市有林をはじめとした
釧路市内の森林資源の活用策を検討

– 設置時期

H 22.11

(川上部会H 22.12)

(川下部会H 23.2)



以前に挙げられた課題

項目	課題
資源	利用可能な「量」が不明
安定供給（原料確保）	地域の木材が「安定的」に供給されない
性質・品質	木材性質に難（利用の手法（技術）が普及していない）
価格	地域材の利用に「コスト」が掛かりすぎる
説明・人材育成	木材・地域材を利用する「 地域の共通認識 」が不足
プロモーション	木材・地域材を利用することメリットの認識不足
品質管理	満足できる「品質」の木材が供給されない
使用用途	必要条件が満たされず画一的な木材利用が行われている
商品開発	顧客ニーズ にあった商品が提供されていない
ブランド化	地域材を利用するインセンティブが不十分
連携	地域内での連携が薄い
行政との連携・補助	（コストに見合うだけの）メリットがない
解決に向けた「行動」へ！	

3 . くしろ木づな プロジェクト (平成24年度の取組)

くしろ木づなプロジェクトとは

くしろの様々な地区、様々な業種の方
たちが、「木」で「つな」がり
円卓会議で話し合ったことをもとにし
て、地元木材の利用を広げる

「木」が「つな」ぐ、市町内の“絆”

木づなプロジェクトの事業構成

もっと知る、くしろの木



課題

- ・利用可能な資源量が不明
- ・木材の性質
- ・カラマツ製品の「品質」情報の調査、数値化

もっと使う、くしろの木



課題

- ・画一的な木材利用
- ・顧客ニーズにあった商品提供
- ・地域内での幅広い使い道の検討

もっと伝える、くしろの木と森



課題

- ・プロモーション不足
- ・木材を利用する地域の共通認識不足
- ・人材育成、利用するエンドユーザー（応援団）増加

「もっと知る、くしろの木」の取組

- 地域材の品質を明確に示しユーザーの信頼構築
- 流通コストの明確化とコストの低減

平成 23年度	平成 24年度
<p><品質の把握> 強度試験、 燃焼試験 木材としての強度等を 数値で確認</p>	<p>市有林森林経営計画の策定 市有林の資源の安定供給を目指し、 森林経営（間伐、主伐など）の計画を策定。</p>
<p><流通状況の把握> 流通コスト調査 林地未利用材が搬出可能 か調査</p>	<p><品質の把握> 品川シェルター強度試験 品川シェルターに使用可能か調査 木造住宅気密測定試験 木造住宅の気密性能について調査</p>

市有林森林経営計画の策定

基本方針

現状の人工林・天然林配置を維持
 天然林は自然力に委ね、必要な場合のみ改良等を行う
 保安林・制限林は法令に基づき維持管理
 木材生産に資する森林を「生産林」とし、齢級構成の平準化と
 持続的な木材供給を主眼に長期計画を策定

生産林における施業方針

カラマツ生産林を「短伐期（４０年）」「長伐期（５０年）」に
 区分。
 それぞれの区分ごとに「安定的な木材生産」と
 齢級構成の平準化を図る。
 間伐は「列状間伐」、主伐は「更新伐+樹下植栽」を基本
 カラマツ以外の生産林は、生育の良いカラマツへの移行を基本



市有林の事業量

	平成23年 実績	平成24年 実績	平成25年 計画
間伐	209.67ha	184.13ha	123.10ha
除伐	23.24ha	18.96ha	12.72ha
樹下植栽	3.38ha	-	-
更新伐	-	-	65.00ha

市有林面積 5,148ha
 (うち 音別地区 2,767ha
 阿寒地区 1,417ha)



< 品質の把握 >

品川シェルター強度試験

「品川シェルターは東京都品川区、日本大学、区内工務店が共同で開発した木製簡易防災シェルター」

既存のシェルターは、スギ材を想定して強度計算。カラマツの強度を計算

カラマツはスギより強く、揺れのときのめり込みが発生せず折れてしまうことが判明



* 日本大学 調査協力



< 品質の把握 >

木造住宅気密測定試験

カラマツ住宅においても、高気密高断熱住宅の基準「北方型住宅」程度の気密性能があることを確認



開口部を目張り



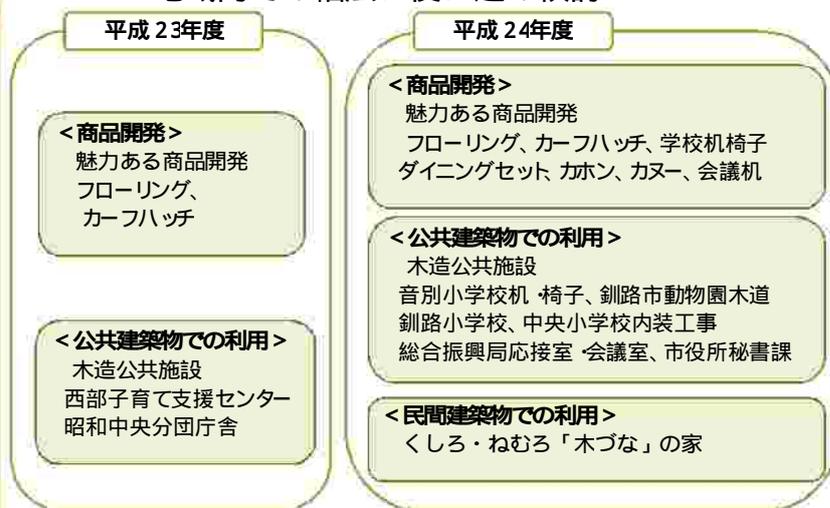
住宅の中と外の
気圧差から
隙間面積を
測定



* (株)サトケン 調査協力

「もっと使う,くしろの木」の取組

課題 ・画一的な木材利用
 ・顧客ニーズにあった商品提供
 地域内での幅広い使い道の検討



<商品開発>

カラマツ壁材、床材



円卓会議メンバー
 応接室



市役所秘書課



< 商品開発 >

カラマツカーフハッチ



- ・作業する方の負担を軽減するデザイン
- ・少ない種類の部材で構成



< 商品開発 >

カラマツ学校机・椅子



- ・硬い天板とするためFRP加工
- ・椅子ノンスリップ塗装



< 商品開発 >

カラマツダイニングテーブル



F R P 加工

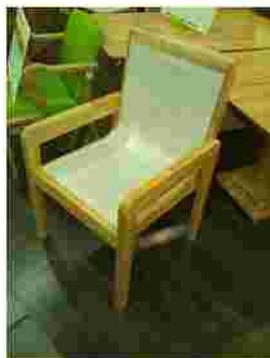


ウレタン塗装



< 商品開発 >

カラマツ椅子



< 商品開発 >

カラマツカホン



平成25年2月上旬開催メイドインくしろの
親子木工イベント向けとして開発



< 商品開発 >

カラマツカヌー



板が細くなって割れないよう、一つ一つ
節の少ないところを選ぶ必要



< 商品開発 >

カラマツ会議机



総合振興局会議室



総合振興局林務課
打合せスペース



< 木造公共施設 >

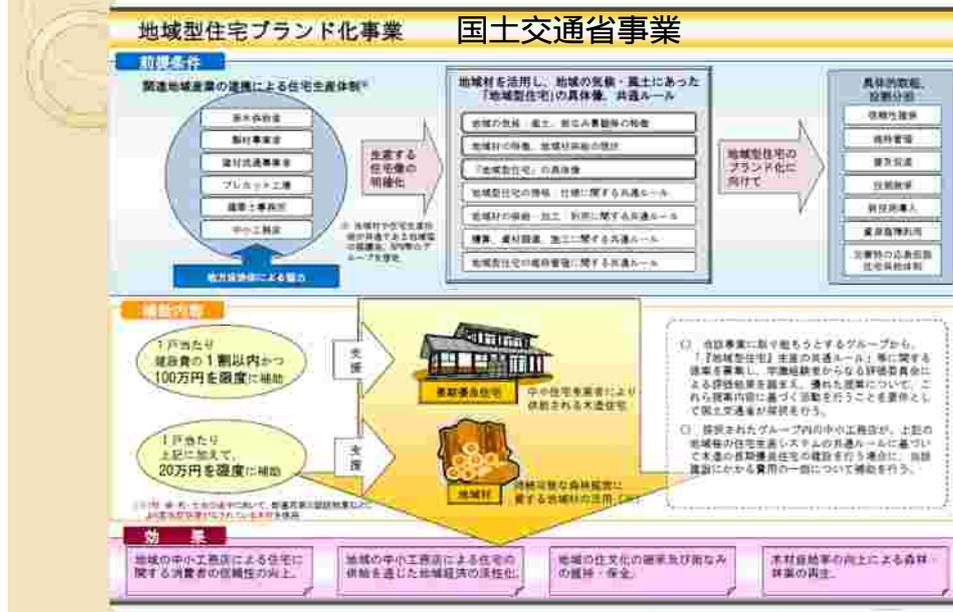
釧路小学校、中央小学校内装



中央小学校内装



< 民間建築物での利用 (1) >



< 民間建築物での利用 (2) >

地域型住宅ブランド化事業の取組について

1. 地域型住宅ブランド化事業

本事業では、中小住宅生産者等が他の中小住宅生産者や木材供給、建材流通等の関連事業者とともに構築したグループを公募し、グループ毎に定められた共通ルール等の取り組みが良好なものを国土交通省が採択し、採択されたグループに所属する中小住宅生産者等が当該共通ルール等に基づき木造の長期優良住宅の建設を行う場合、その費用の一部を予算の範囲内において補助 (100 ~ 120 万円/戸)する。



< 民間建築物での利用（3） >

地域型住宅ブランド化事業の取組について

2. くしろ・ねむろ「木づな」の家協議会

コンセプト

「木」が「つな」ぐ地域内の「絆」をより深める「木づなの家」

地域の資源を利用し、地域の関係者が連携して地域型住宅を建設
 構造材の過半は釧路根室地域の木材を使用
 釧路・根室地域に所在する事業者による取組
 見学会などのイベント等により構成員と地域の連携が深まる取組

以上の、コンセプトのもと、森林資源活用円卓会議の関係者を中心に木づなの家協議会というグループ（釧路管内の事業者からなる）を結成し、本事業に採択されるべく申請を行った。



< 民間建築物での利用（4） >

地域型住宅ブランド化事業の取組について

3. くしろ・ねむろ「木づな」の家の具体的な特徴

寒冷地にあった高気密・高断熱の家づくり

.高気密・高断熱性能の確保
 ○熱損失係数、相当隙間面積
 ○カラマツ製材の含水率

.地域材の積極利用
 ○釧路・根室地域の木材を利用
 ○主要構造材の過半は地域材

4. 地域型住宅ブランド化事業の採択状況

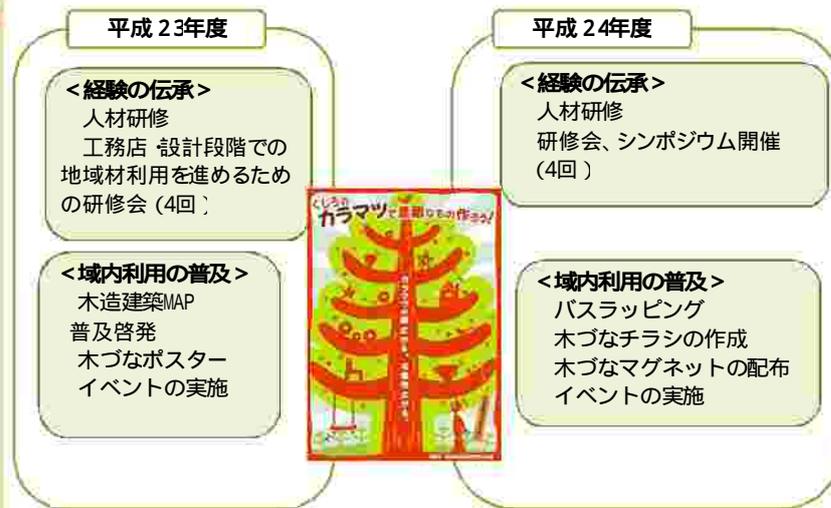
○採択結果

1月11日付 6,000千円（5戸相当）の配分



「もっと伝える,くしろの木と技」の取組

課題 ・プロモーション不足
 ・木材を利用する地域の共通認識不足
 人材育成、利用するエンドユーザー（応援団）増加



< 経験の伝承 >

人材研修

1 回目

日時：平成 24 年 7 月 23 日

内容：「品川シェルターのコンセプト・メカニズム・施工」

講師：日本大学 宮里助教

(株)辻村工務店 濱野代表取締役



2 回目

日時：平成 24 年 11 月 5 日

内容：「住宅の断熱・気密性能と再生可能エネルギーの活用」

講師：釧路工業高等専門学校

佐藤教授、川村准教授



< 経験の伝承 >

人材研修

3回目

日時：平成24年12月20日

内容：「木材乾燥技術セミナー」

講師：（地独）北海道立総合研究機構

林産試験場

伊藤主査、佐藤主査



4回目

日時：平成25年1月24日

内容：「地域資源“森林”をまるごと利用するために！！」

講師：(株)トビムシ 牧取締役

(株)丸善木材 鈴木専務

NPO法人阿寒観光協会まちづくり

推進機構 安部 ツアーデスク



< 域内利用の普及 >

バスラッピング



- ・右のポスターと同じテイストのデザインで広く周知を図る



< 域内利用の普及 >

木づなちらし、マグネット作成



- ・「木づなプロジェクト」の象徴的デザインを広く周知し、地域材利用の取組をPR



< 域内利用の普及 >

イベントの実施



- 親子木工イベントの実施
- 商品開発した製品展示しアンケート調査

